



果樹課
大和屋 尚享

りんご 腐らん病対策を徹底しましょう!

近年、腐らん病の発生が多くなっています。りんご栽培をしている方へ対策を徹底していただきたく、このことについて紹介します。腐らん病は、「枝腐らん」と「胴腐らん」がありますが、今回は「枝腐らん」の対策についてお伝えします。

■腐らん病とは

りんごの枝や幹に感染し、発病部位を腐らせて最終的には樹全体が枯死する病害です。雪害で折れた傷口や、摘果痕（果台や果柄・写真1）、剪定痕、収穫した後の果台といった傷口からも菌が侵入しますが、すぐに発病するわけではなく、**数か月から1年以上の潜伏期間を経て発病**します。

夏場に干ばつとなつた年の翌年に発病率が増加することが分かっていますので、今年には特に注意が必要になります。

菌（孢子）は年中飛散しており、摘果痕や剪定痕等は、りんご栽培管理上必ず発生するので、常に感染の恐れがあるということになります。



【写真1】
果台から感染した様子



【写真2】
枝が罹病し、枯れている様子

■「枝腐らん」は見つけ次第、適切に処置!

「枝腐らん」の病患部は、褐色になって枯れ込んでいきますので（写真1、2）、開花期前後に園地を見回り、**見つけ次第その場で処置**するようにしましょう。6月中旬以降、枝葉が繁茂してくると見つけづらくなりますし、後で処置しようとしても、見る角度が変わると分からなくなってしまう場合があります。

処置は、**健全部を含めて発病部位を長めに剪去**し、焼却処分しましょう。

■薬剤防除

本病は薬剤で防除することも出来ません。

1. 剪定痕や雪害で折れた部分には「トップジンMペースト」や「バッチレート」を塗布しましょう
2. 摘果が一回りできたタイミング（6月下旬頃）で「トップジンM水和剤1，500倍」を散布することで、摘果後の果台や果柄からの感染防止対策となります。

★伝染源が残されているままだと、いくら薬剤防除しても対処しきれません。

一番の対策は、「見つけ次第その場で切る」ことです。これから剪定作業が本格化しますので、罹病枝があれば、その場で確実に処置しましょう!

◇お問い合わせ◇

営農経済部 果樹課 0182-23-6266